

六井



玉井 上玉里

大宮神社の北側に所在し、昭和20年頃までは湧水がありました。『常陸國風土記』に、倭武天皇（ヤマトタケルノスメラミコト）が「桑原の岳」に停まれたとき水部（もひとりべ）に井戸を掘らせたところ、清らかな水がこんこんと湧き出しました。それをみて「よくたまれる水かな」とほめたたえ、それがもとになって、田餘（たまり）と呼ぶようになったと伝えられています。



亀井 高崎

富士峰台地の裾にあります。下方に弁才天と呼ばれる広い水田が広がり、その灌溉用水や付近の生活用水として利用されてきました。亀井には、たくさんの石仏や石碑が残り、当時の姿を偲ばせます。



八井 下玉里

下玉里的素鷲神社付近にあり、今も水が絶えず湧いています。



涌井 上玉里

玉里総合支所の東南約150mの谷頭にあります。平成11年、玉里の史跡と自然を護る会の有志により、埋まった土砂の除去と調査が行なわれ、復活しました。昭和9年の十銭硬貨、レンガ、陶器、桶などが出土しています。



帶阿井 下玉里

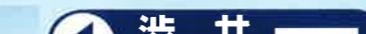
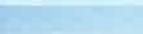
高井谷津から平内台に抜ける市道のほとりにあります。



高井 下玉里

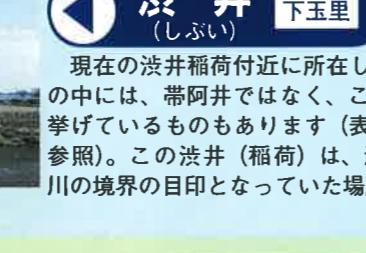
かつての市海道沿いの丘陵のふもとにあり、井戸やその周辺は泉上（せんがみ）と呼ばれています。

平成11年度、玉里の史跡と自然を護る会の有志により、整備されました。



渋井 下玉里

現在の渋井稻荷付近に所在していました。古文書の中には、帶阿井ではなく、この渋井を玉里六井に挙げているものもあります（表紙、玉里古跡録写真参照）。この渋井（稻荷）は、江戸時代、玉里御留川の境界の目印となっていた場所です。



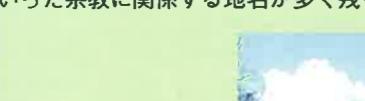
六烟

ここに記載してあるほかに、大宮久保、天神久保、平内、下滝の畠をあげる古文書や伝承もあります。また玉里六烟は、他の六井、八館、八艘と違い、明治年間以降の文書に記載がみられるものです。



大日久保 上玉里

外山の南東に面するゆるい傾斜地で約1haほどの広さを有します。付近には稻荷（とうか）台、新福寺、宮後、寺前などといった宗教に関係する地名が多く残っています。



地蔵久保 上玉里

大日久保の近く、やはり南に面する傾斜地に所在します。広さは約1ha。



中里西の内久保 下玉里

中里の南西に接する約50aの畠で、南東にゆるい傾斜を持ちます。



岡の内久保 高崎

下玉里的市海道から市生涯学習センターに向かう地点の右手にある約70aの畠です。



無棍久保 下玉里

大井戸平の台地から東南に傾斜する約60aほどの畠です。



八館

ここにあげたもののほか、玉里には小松館、葛城館、笠松館、殿塙館などの城館がありました。



館山館 高崎・下玉里

市生涯学習センターと、東側の権現平とを合わせた広大な敷地内に

築かれた居館です。南北朝期の応安元年（1368）、常陸大掾高幹の一族、露町三河守平照光によって築城されました。平成4年、8年に発

掘調査が行なわれ、土壘、堀、柵、郭、井戸などの諸施設が確認され

ました。

愛宕館 下玉里

愛宕塚古墳を中心に、館があったと伝え

られています。南北朝期の延元元年（1336）、

北朝方の佐竹義春軍と南朝方の春日頭國・

楠正家（瓜連城主）が交戦した「大枝（大井戸）の戦い」の主戦場となり、愛宕神社も兵

火に焼かれたといわれています。



城の内館 川中子

自然堤防上の県道沿いにあり、土壘

と堀が方形に巡る居館です。



取手山館 田木谷

玉里台地の最東端に位置し、天文6年（1537）、府中城主大掾

貞国が築城。天正16年（1588）には、大掾氏と江戸・佐竹氏との

間で「取手山の戦い」の合戦が起こり、水戸市和光院過去帳によ

ると、戦死者200人を越す激戦の末、落城したされています。

平成24年度の発掘調査では、2ヶ所の郭、それを取り囲むよう

に掘られた6条の堀、虎口などが確認されました。最前線の城館

跡ならではの近代戦の塹壕のような通路跡も見つかっています。



飯塙館 上玉里

2重の土壘と3重の堀が方形に巡る居

館です。内部にはさらに郭を区画する

堀、土壘があります。常陸大掾、平国香

の子孫である兼忠の係累である飯塙氏が

館主でした。築城は平安末期。



原山館 上玉里

円妙寺街道沿いにあり、今でも土壘や

堀が現存しています。常陸大掾氏の家臣、

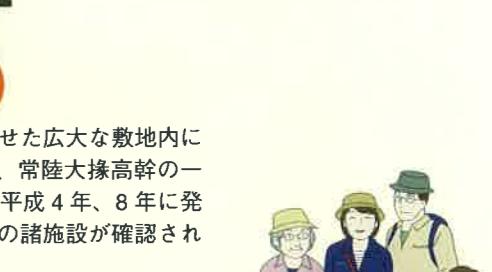
原美濃守の居館と伝えられています。



富士峰館

高崎

築城時期は不明。天正18年（1590）、佐竹義宣が常陸大掾清幹を攻めるにあたって、高野浜城（高浜）を攻略するために富士峰館に陣を置き、自ら大軍を率いてこれを破ったといわれています。



要害館 下玉里

女池北東の台地先端部に立地しています。

土壘や堀が現存しています。常陸大掾氏の城館の一つで、館主は久保田平内と伝えられます。

